

# 平成22年度高鍋町事務事業評価表

## ◎事務事業の概要

事務事業名	地域安全対策事業				開始年度		
基本目標	地域安全対策の推進				終了年度		
担当課(局)	総務課	担当係	生活安全係	記入者	日高茂利	評価者	間 省二
21年度決算	3,865	千円	22年度予算	4,404	千円	事業の実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
21年度人件費	1,093	千円	22年度人件費	1,085	千円	事業従事者数	0.15 人 0.15 人

## ◎事務事業の目的・内容

事業の目的	地域における防犯活動を推進することにより、犯罪を未然に防止し安全で住みよい地域社会の実現を図る
事業の内容	住民で構成される防犯協会や防犯モデル地区、地域安全組織の防犯活動を支援。青パトを活用した防犯パトロールの実施。防犯灯設置。

## ◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名	何を狙い、どのような成果が得られたのか
	# 刑法犯認知件数	防犯パトロール等の活動拡大や防犯灯の設置により刑法犯認知件数が減少する
	2	
活動指標	活動指標名	どれほどの活動をしたのか、事業の手法、手順等を詳細に
	# 防犯活動実施地区数	各地区で防犯活動を実施
	2 青パト稼働日数	青色防犯灯付パトロールカー等を活用した防犯パトロールを実施
	3 年間防犯灯設置数	夜間における防犯対策の緊急性の高い地域に防犯灯を設置

## ◎達成状況

指標名		単位	20年度	21年度	22年度
成果指標	刑法犯認知件数	目標値	200	200	150
		実績値	234	177	
		達成率	117.0%	88.5%	
	0	目標値			
		実績値			
		達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!
	0	目標値			
		実績値			
		達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!
活動指標	防犯活動実施地区数	目標値	10	11	12
		実績値	10	11	
		達成率	100.0%	100.0%	
	青パト稼働日数	目標値	200	200	220
		実績値	159	226	
		達成率	79.5%	113.0%	
	年間防犯灯設置数	目標値	基	10	10
		実績値		11	10
		達成率	%	110.0%	100.0%

## ◎事務事業の評価

妥当性 (必要性)	◎目的からして町が行うべきか ◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか ◎事業廃止による影響があるのか	高鍋町安全な街づくり条例において、町民の自主的な地域安全活動と生活環境の整備を推進することにより、事件、事故、災害等の未然防止を図り、安全で住みよい地域社会を実現することが明文化されている。
有効性	◎目標に対して成果は得られているか ◎成果向上のための改善余地があるか	刑法犯認知件数は、依然として増加傾向にあり、平成21年度において目標を達成することができなかったが、自主防犯団体の設立や活動の活性化に寄与している。また、防犯灯設置は危険地域の解消に効果を上げている。
効率性	◎活動量の効果は上がっているか ◎経費や時間の削減余地があるか	防犯活動の推進は、パトロール等の実施回数や防犯活動団体への資機材の支援により効果を発揮するもので、活動に対する経費、時間と比例しており削減の余地は少ない。防犯灯については、毎年10基程度を設置しており、整備箇所での安心・安全の効果は上がっている。
協働性	◎町民との協働の可能性があるか(ボランティア・NPO等)	自治公民館単位で構成する防犯組織の活動や地域みまもりを事業の一環とするNPOも設立しており、将来的にこれらの組織との協働による事業の可能性は考えられる。防犯灯設置に関しては、住民自らが居住地域内において防犯灯の必要な箇所を調査しており、設置後は維持管理や電気料金の負担を行っている。

事務事業名	地域安全対策事業	担当課(局)	総務課
-------	----------	--------	-----

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	◎担当の方針に対する評価者としての所見 ◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等	青色回転灯付パトロールカーによる、犯罪防止活動を積極的に実施していく必要がある。また、住民主導の地域安全活動のさらなる推進が必要。	今後の方向性					
			事業の方向性	拡充			○	
				現状維持			3	
				縮小				
				廃止				
			廃止	縮小	現状維持	拡充		
			コスト					

事務事業評価委員会 評価欄	事業	拡充	◎事業の方向性は拡充で当然であると思うが、成果指標を考えてほしい。 ◎緊急雇用補助事業が終了した後のことも考慮しなければならない。 ◎今後は地域との協働などを検討してもらいたい。 ※評価対象として馴染まない、という意見が複数あったため、次回以降に要検討。
	コスト	現状維持	